

平素より本プログラムをご支援いただきありがとうございます。
本プログラムは、昨年創設20周年を迎えました。

【北京レポート】日中トップ連携の深化と未来への飛躍

- ◆ 合同プログラム運営委員会協議会 ◆
- ◆ 在中国日本国大使館 在外公館長表彰 ◆
- ◆ プログラム学生との交流会 ◆

在中国日本国大使館
在外公館長表彰式



左から、清華大学 姜培学（JIANG Peixue）副学長、東京科学大学 関口秀俊 執行役副学長、
在中国日本国大使館 金杉憲治大使

両大学の未来を語る：第21回 合同プログラム運営委員会協議会

2025年10月10日（金）、清華大学 北京キャンパス 英士楼205会議室にて、第21回合同プログラム運営委員会協議会が開催されました。

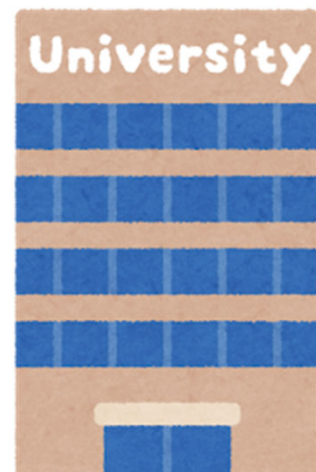
本学からは蒲池利章 副学長、プログラム運営委員長 猪原健弘 教授をはじめとする関係教職員が出席、両大学の教職員が一堂に会し、プログラムのさらなる発展に向けた重要議題について、活発な意見交換を行いました。



左から 清華大学 プログラム運営委員長 张翀(Zhang Chong)教授と
東京科学大学 プログラム運営委員長 猪原健弘教授



協議会終了後、参加者全員で記念撮影



プログラムの長年の功績に栄誉： 在中国日本国大使館 在外公館長表彰

2025年10月11日（土）、在中国日本国大使館大使公邸において、東京科学大学・清華大学 大学院合同プログラムに対し、**在外公館長表彰**が授与されました。長年にわたる日中の学術交流への貢献とその功績が称えられたこの歴史的な出来事を、同日同所にて行われた表敬訪問から祝賀会までハイライトと共にお届けします。

【大使表敬訪問】 大使と語る日中協力と大学の未来

表彰式に先立ち、関口執行役副学長、蒲池副学長ら本学執行部・教職員は、金杉憲治大使への表敬訪問に臨みました。お迎えいただいたお部屋からは、美しい日本庭園が一望でき、庭の樹々もこの栄誉ある受賞を祝福しているかのようでした。

金杉大使との意見交換のハイライト ＜中国の進化と経済情勢＞

大使は、中国がこの数年で電子決済の普及など急速な進歩を遂げていることや、新技術の検証導入スピードが速いことに言及され、在中国日系企業が中国の消費者向け商品への切り替えを進めている現状など、最新の経済動向を共有されました。

＜本学のグローバル戦略と中国との連携＞

関口執行役副学長は、本学の留学生の60%強が中国からの学生であることに触れ、清華大学とのプログラムが留学生獲得に果たす役割の重要性を強調しました。また、VI（Visionary Initiatives）の導入や、国際医工連携共創研究院の設立など、統合後の本学が目指す先進的な研究・教育体制について説明を行いました。

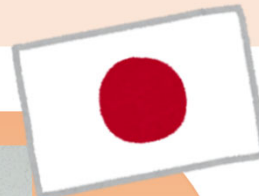
＜今後への期待＞

短い時間ではありましたが、大使と本学執行部の間で、日中間の学術交流の重要性、および本プログラムが将来の日中関係、特に学術研究の発展に果たす役割について、極めて貴重な意見交換を行うことができました。



プログラムの長年の功績に栄誉：
在中国日本国大使館 在外公館長表彰

【大使表敬訪問】



関口執行役副学長より金杉大使への記念品贈呈



金杉大使、園田 庸公使との記念撮影

2025年10月11日
在中国日本国大使館
大使公邸にて

プログラムの長年の功績に栄誉： 在中国日本国大使館 在外公館長表彰

【在外公館長表彰式】

夕刻からの表彰式には、東京科学大学と清華大学の教職員・プログラム学生、また、来賓の皆さま、合わせて約30名ほどが出席しました。

■ 金杉大使の祝辞：「日中教育交流の先駆的モデル」

大使は表彰状授与にあたり、2004年にスタートし昨年20周年を迎えた本プログラムについて、「日中の大学間交流、教育交流における先駆的かつ重要なモデルケース」とであると、その歴史的意義を高く評価されました。「いまでこそ我が国の多くの大学で共同学位課程が多く存在しておりますが、このプログラムは、正にその先駆者として、他校に参考となる事例もない中でスタートされ、関係者のご苦労も相当多くあったものと思います。」

さらに、関係者の長年の苦労を慮りつつ、「お互いの学生のためによりよい教育をしていこうという同じ志を共有しながら運営されてきた成果」とであると、両大学の協力体制を称賛されました。



金杉大使からの祝辞

プログラムの長年の功績に栄誉： 在中国日本国大使館 在外公館長表彰

■ 受賞者挨拶：困難を乗り越えた継続の証明

＜東京科学大学＞

・**関口執行役副学長**は、本プログラムが「我が国にとって初めてのダブルディグリープログラムであり、日中の架け橋となる人材を輩出してきたことは、本学にとって最大の誇り」であると述べ、大使館をはじめとする関係各所の長年の支援に深く感謝の意を表しました。

・**猪原運営委員長**は、6年半にわたる運営の中で特に新型コロナウイルス禍という困難があったことを振り返りつつ、「そのような状況下においても、途切れることなく両大学の修士の学位を取得する学生を輩出し続けてこられたことは、本プログラムの大きな誇り」であると、その継続的な成果を強調しました。また、修了生たちが多岐にわたる分野で「多文化対応能力と高度な専門性」を活かし活躍していると報告しました。

＜清華大学＞

・**姜（JIANG）副学長**は、この受賞は「本プログラムそのものへの高い評価であるのみならず、若き人材を育成するために積み重ねてきた努力に対する大きな励ましである」と述べられました。さらに、中国の格言「木を育てるには十年かかるが、人を育てるには百年かかる」を引用し、「私たちはこれからも日本の皆様と引き続き協力し、百年先の将来を見据えながら、世界的な大役を担う若き優秀な人材をともに育てまいりたい」と、長期的な継続への強い決意を述べられました。

・**張（ZHANG）運営委員長**は、「日中間で初めてとなる大学院共同教育プログラムとして、21年にわたる長年の努力が評価された」と感謝を表明。さらに「両大学の教員と学生が協力し合い、日中両国の文化に通じた次世代のリーダー人材を育成してまいりました。」と、プログラムが輩出してきた人材の質と、両大学の教員・学生による協力体制を強調されました。



東京科学大学 関口執行役副学長



清華大学 姜培学（JIANG Peixue）副学長

プログラムの長年の功績に栄誉：
在中国日本国大使館 在外公館長表彰金杉大使より表彰状が
授与されました参加者全員で記念撮影 表彰式後のレセプションでは、大使館関係者、来賓の皆さま、清華大学、
本学関係者が一堂に会し、受賞の喜びを分かち合いました。



■ 乾杯の挨拶：

元コース長からの感動のエール

乾杯の音頭は、以前約6年間バイオコース長を務めていた蒲池副学長が担当しました。

「この受賞は個人的にも非常に感慨深いものがある」と述べ、日中両国の学術交流を深化させる重要な取り組みであることを強調し、盛大な乾杯と祝賀会に続きました。



会場の様子



秋を感じる彩り豊かなお料理のプレゼンテーション



美しいお料理の数々



喜びを分かち合う両大学運営委員長、左から清華大学Zhang教授、東京科学大学 猪原教授

more photos



表彰式において、通訳という重要な役割を見事に果たしたプログラム生、東京科学大学19期生石合智郎さんと清華大学22期生黄 龙群 (HUANG Longqun) さん、金杉大使と記念撮影

左から、蒲池副学長、金杉大使、名子学参事官、関口執行役副学長



金杉大使を囲んで記念撮影
(東京科学大学教職員)



金杉大使を囲んで念撮影 (清華大学教職員)



未来へのバトン：清華大学に留学中のプログラム学生との交流会

出張最終日の10月12日（日）は、清華大学主要箇所見学の後、同大学に留学中のプログラム学生との交流会（昼食会）を実施しました。

【交流会の概要】

会場：清華大学 艺博咖啡（博物館横のカフェテリア）

参加者：関口執行役副学長、蒲池副学長、プログラム運営委員長・各コース長ら教職員、19期生から21期生までのプログラム学生（小穴さん、石合さん、ユンさん、河野さん、川見さん、菅野さん、赤坂さんの7名が出席）。

昼食をとりながら行われた交流会では、教職員が学生たちに対し、留学状況（研究、講義、私生活）や、現在困っていること、プログラムへの要望などについて積極的に質問しました。学生からは、日中両大学での研究の進め方や、異文化での生活におけるリアルな声が共有され、教職員からは、それぞれの経験に基づいた助言やエールが送られました。プログラム生のモチベーション向上に繋がる貴重な時間となったことを祈ります。



日中トップレベルの教育を受ける皆さん、まさに両国の『未来の架け橋』であり、世界を牽引する次世代のリーダーです。この貴重な経験を最大限に活かし、困難を乗り越えて大きく羽ばたいてくれることを心から期待しています！